未来の図書館 研究所
NEWS LETTER
No.18
2025.5.26

Contents

■ ワークショップ「図書館員の未来準備」をリニューアルします
■ 研究所 TOPICS
■ ヘルスリテラシー向上のために ―鳥取県立図書館の医療・健康情報サービス／佐伯 真由佳
■ 美麗島（台湾）の公共図書館 ／永田 治樹（Library Compass 第 14 回）

■ ワークショップ「図書館員の未来準備」をリニューアルします

ワークショップ「図書館員の未来準備」は，図書館員の皆さまの参加のしやすさや関心領域を考慮し，今年から持ち方をリニューアルします。これからの図書館員が今学ぶべき知識・スキルを習得するために，手や口を動かしてワークショップ形式で学ぶという基本コンセプトは変わりません。今後も図書館員の皆さまのニーズや現状をとらえ，随時更新しながら運営していきます。

Point 1 領域・科目構成を変えます

もっとわかりやすく，3 領域から 2 領域に

領域①図書館の情報システム
領域②図書館の役割 1「図書館とコミュニティ」
領域③図書館の役割 2「図書館と学び」

→ **●図書館とデジタルサービス**
●図書館と地域社会

Point 2 開催時期を 2 期に分けます

もっと参加しやすく，領域ごとの分散開催に

9～11 月に3～5日間・科目数6～9で全領域を集中開催

→ **第 1 期（7 月）・第2期（12 月）に分け，領域ごとに2～3日間・3～4 科目で構成**

ワークショップ 図書館員の未来準備 2025

リニューアル第 1 弾，7 月開催の領域「図書館と地域社会」では，「IFLA-UNESCO 公共図書館宣言2022」で示された「地域社会を育む図書館」という役割について考えます。会場とオンライン（Zoom）の両方で開催します。参加方法は科目ごとに選択可能です。

会 場 株式会社ヴィアックス 本郷研修センター
（東京都文京区本郷 4-9-25 真成館ビル 2 階）

定 員 各科目 20 名程度

受講料 全科目：3 科目 8,000 円（税込）
科目別：1 科目 3,000 円（税込）

お申込み 下記 QR コードまたは URL から詳細をご確認のうえお申込みください。

▶ https://www.miraitosyokan.jp/future_lib/ws/202507/workshop202507.pdf

スケジュール

日時	科目名	講師
7月1日（火）13:00～15:00	21 世紀の地域社会における公共図書館のあり方	小泉 公乃 氏（筑波大学）
7月14 日（月）10:00～12:00	住民と共に学び，遊ぶ図書館	西川 正 氏（真庭市立中央図書館）
7月14 日（月）13:30～16:00	地域をつなぐ図書館（米国の事例）	豊田 恭子 氏（東京農業大学）

※領域「図書館とデジタルサービス」は 12 月に開催を予定しています

研究所 TOPICS

■ 「妙高市複合施設まちなか＋（ぷらす）活用アクションプラン」が公表されました

2024年度に当研究所が策定支援業務を受託しました「妙高市複合施設まちなか＋（ぷらす）活用アクションプラン」が，妙高市ホームページに公表されました。 市民等の多様な主体が連携し，「共創」によって，施設を育て，まちに賑わいを生み出すためのアクションプランとして策定したもので，これからも市民等との対話により随時，進化（更新）を図ることとしています。

■「江東区立図書館ビジョン策定支援業務委託」を受託しました

「図書館経営方針」と「こども読書活動推進計画」を統合し，将来の図書館像を見据えた実効性の高い計画策定に向け，区民アンケート調査・集計・分析，区民ワークショップのファシリテーター・記録の作成，計画案の作成支援などを行います。

■ 書籍『図書館と居場所（未来の図書館 研究所 調査・研究レポート2024）』を6月に発行します

2025年6月に，今号も引き続き書籍として樹村房より発売します。当研究所主催シンポジウム「図書館と居場所」記録のほか，新居千秋氏の「オンリーワンの居場所を目指し続けて」，大場博幸氏による講演「公共図書館の目指す価値と蔵書構成の実際」記録，磯部ゆき江の「広域連携によってできること」を掲載しています。

ヘルスリテラシー向上のために　ー鳥取県立図書館の医療・健康情報サービス

佐伯　真由佳（鳥取県立図書館）

「家族の病気について調べています」
「今度受ける手術について，自分でも詳しく知っておきたいのですが」

カウンターでたびたびお受けする資料相談です。どなたもご自分や周りの大切な方々の健康に不安や悩みを抱え，切実に情報を求めていらっしゃいます。大切な情報を得る場所として，図書館を選んでいただいていることに身の引き締まる思いがします。鳥取県立図書館では，県民のみなさまの「不安」を少しでも「安心」に変えられるよう，医療・健康情報サービスの提供に取り組んでいます。本稿では，当館の医療・健康情報サービスについてご紹介します。

◆ヘルスリテラシー向上のために

「ヘルスリテラシー」とは，医療・健康情報を入手し理解して，評価し活用（意思決定）できる力のことです。ヘルスリテラシーは健康格差の要因になっていると言われています[1]。

新型コロナウイルス感染症が流行し始めた頃は，様々な情報が錯綜し，信頼性の高い情報を入手することの難しさと必要性を強く感じました。当館では，図書館に来られなくなっても情報を入手してもらえるようにリンク集を作成し，公開後も，公的機関の新型コロナウイルス感染症に関する情報を更新して，充実させていきました。

信頼性の高い情報の収集は司書の力の見せどころでもありますが，自身の体や病気のことは他人に話しづらいと感じる方もいらっしゃいます。そこで，当館では各種疾病や薬等に関するパスファインダー「医療・健康情報調べ方案内」を作成し，ホームページに掲載しているほか，闘病記文庫コーナーと玄関の外に設置しています。玄関の外に置いている調べ方案内は，当館が閉まっているときでもご活用いただくことができます。利用者が自分で情報にたどり着くことができるよう，病気を調べるためのキーワードや資料検索のコツ等を掲載しています。

また，令和5年度には，講師に大野智氏（島根大学医学部附属病院臨床研究センター教授）を迎え，講演会「医療・健康情報の見極め方と向き合い方」を開催しました。医療・健康情報の入手，理解，評価，活用について，わかりやすく噛み砕いてお話しいただきました。

今後も，図書館として，ヘルスリテラシー向上に役立つ取組を進めていきたいところです。

▲ 玄関外の医療・健康情報調べ方案内

◆医療・健康情報サービスの始まり

平成17年度から，医療・健康情報提供に関する研修への参加，先進館の視察，闘病記文庫の開設を支援する医療関係者で構成された「健康情報棚プロジェクト」との連携といった準備を進め，平成18年度に，館内職員向けの研修，闘病記文庫の開設等を経て，「県民のための健康情報サービス」を開始しました。また，当サービスの提供には専門的な知見が必要であるため，サービス開始に当たって，外部の医療関係機関（鳥取県医師会，鳥取県看護協会，鳥取大学医学図書館，鳥取県立中央病院，各種患者会）と県関係課で設置した「県民のための健康情報サービス委員会」から，収集する資料・情報や当サービスの事業，関係機関との連携のあり方等に対する助言をいただきました。同委員会はサービスが定着するまでの5年間開催され，平成22年度をもって解散しました。

◆資料について

（1）医学関係資料

サービス開始当初に関係先から学んだ基本的な考え方をふまえて，現在も医学関係の図書，患者会資料，専門雑誌，医学論文を探すことのできるデータベース等，信頼性が高い多様な資料・情報を継続的に収集し，提供しています。

当館1階に，医学関係の一般書を集めた「医療・健康情報コーナー」があります。病気や治療法，薬，リハビリ，看護などについて，入門書から専門書まで，約8，000冊の資料を置いています。当館では，基本的に分類番号は4桁までとしていますが，医学分野では5～7桁まで細かく分類し，差込み板を入れることで，「糖尿病」や「認知症」等，罹患する方が多い病気の情報等が見つけやすくなるようにしています。

専門的な資料としては，体のしくみや病気について系統立てて比較的わかりやすく解説されている医学生・看護師向けの教科書，科学的根拠に基づいて作成されている診療ガイドラインの収集に力を入れています。

▲ 医療・健康情報コーナー

（2）闘病記

「医療・健康情報コーナー」の奥には，「闘病記文庫コーナー」があります。コーナーには，約1，000冊の闘病記を置いています。患者会や看護関係者の意見をもとに，人目を気にせず，ゆったりと本を読んでいただけるよう，奥まった場所にコーナーを設けて椅子を設置したり，「がん」「認知症」「うつ病・こころの病気」「その他の病気」「小児」「介護」の六つのテーマに分類して，該当の闘病記を探しやすくなるようにしたりと，工夫を重ねています。患者やそのご家族の心を支える資料である闘病記は，医学関係資料と同じく，当サービスに欠かせないものです。1冊ずつ件名を入力し，「闘病記＿病名」のキーワードで検索できるようにしています。

▲ 闘病記文庫コーナー

（3）選書

当館では，見計いとオンライン投票による選書を行っています。見計いは県内書店によるもので，大学医学図書館に資料を納入している書店にも参加していただいているため，実際に医学関係資料を手に取って，内容を確認しながら選書することができ，職員が専門的な資料を知る貴重な機会となっています。オンライン投票では，1週間分の新刊データをまとめたデータベースを使用して職員が投票し，週に1度の選定会議で投票された資料について購入の可否を協議します。

（4）資料の搬送システム

県内図書館は搬送便・宅配便を活用し，相互貸借資料等の送受を行っています。このシステムにより，県民のみなさまに当館や鳥取

大学医学図書館の資料を身近な図書館を通して利用していただくことができるようになっています。当館の資料に関しては，原則午前11時までに受け付けたリクエスト資料はその日のうちに発送し，翌日には希望の図書館にお届けします。

◆関係機関との連携

(1) 展示

鳥取県医師会や鳥取県立中央病院の一般向け講座と連携したミニ展示を当館内で行い，講座の会場で当館のリーフレットやチラシを配布していただいています。講座でチラシ等を手にした方が，展示を見に来られることもあります。鳥取県医師会との連携展示は，「第4次鳥取県がん対策推進計画」の中に，がんとの共生に関わる情報提供事例のひとつとして挙げられています[2]。また，がんや認知症など，各疾病の啓発月間に合わせ，県の関係課と連携した展示を行っています。病気の解説パネルや県の補助制度等のチラシなど，当館の資料だけでは得られない情報を来館者に提供することができます。

▲ 鳥取県医師会や鳥取県立中央病院との連携展示

(2) 出前図書館

関係機関の研修やイベントに出向き，出前図書館を行っています。令和6年度は，鳥取市認知症フォーラムや大型商業施設における県主催の認知症啓発イベント，鳥取県看護協会の研修会場で出前図書館を実施しました。その情報に関心の高い方はもちろん，普段図書館に足を運ぶことがない方にも情報を届けられることから，機会があれば積極的に出かけていきます。

鳥取県看護協会の研修については，新型コロナウイルス感染症の影響で研修自体が中止になるなど，連携が途絶えていたのですが，数年ぶりに伺うことができました。前述のとおり，看護関係の資料を収集していることもあってか，日頃から看護師の方には当館をよく利用していただいていますが，研修に出向いて当館の資料やサービスを知っていただくことで，更なる利用につながっていると感じています。昨年度の出前図書館では，当館のサービス紹介の時間を30分程度いただき，新たに始めた電子書籍サービスを紹介したところ，多忙な看護師のみなさまのニーズに合っていたのか，まだ当館の利用者登録をしていなかった受講者の方がほぼ全員新規登録をされました。このようなニーズを直接知ることができるのも，出前図書館の醍醐味です。

▲ 大型商業施設における認知症啓発イベント

(3) 医療情報サービス担当者連絡会議

当館の特色ある取組のひとつとして，「医療情報サービス担当者連絡会議」があります。これは，県内の病院図書室，大学図書館，市立図書館，当館と，館種を超えて職員が集まり，図書館見学や情報交換などを行うものです。当館と各館には，本の配送や連携事業等を通じてそれぞれ個別につながりがあります。それを1対1だけの関係にせず，当館がネットワークのハブとなり，つながりを広げていく試みです。館種が異なる図書館の情報を得る数少ない機会であると同時に，図書館員同士の顔の見える関係づくりが，地域の情報提供機能の強化につながると考えています。

◆暮らしやすいまちづくり 県民とともにつくる医療・健康情報サービスの取組

当館では以前から，認知症に関する取組を行ってきました[3]。令和5年度，鳥取県長寿社会課が所管する「認知症本人ミーティング」の一環として当館で図書館体験ツアーを実施しました。認知症の方々に当館の中を歩いたり，貸出手続きを体験していただいたりした後，図書館がより利用しやすくなるための改善点等について意見交換を行いました。「貸出レシートの文字が小さい」「館内標示が床にあるとわかりやすい」「トイレの場所がわかりやすいとよい」等，参加者のみなさまから様々なご意見をいただきました。そこで早速，貸出レシートの字体や文字の大きさを変え，視認性の高いものに改善しました。来館者のみなさまからは，「レシートが見やすくなった」とたびたびお声がけいただきました。続いて，令和6年度には，当館主催で認知症の方々と「館内標示を考えるワークショップ」を実施し，わかりやすい館内標示づくりに取り組みました。ワークショップで話し合った案は，『鳥取県福祉のまちづくり施設整備マニュアル』[4]を参考にブラッシュアップし，他の障がい者関係団体や子どもたちにも聞き取りを行い，より多くの方にとってわかりやすいものとなるよう改良を重ね，令和7年3月に設置が完了しました。

当事者の方の声には思いがけない発見があります。今後も，その気づきを大切に，よりよい図書館づくりに活かしていきます。

◆職員研修

前述のとおり，平成18年度，当サービスの開始にあたり，様々な医療情報資源の特徴や，闘病記文庫の開設意義について学ぶ館内職員向けの研修を実施しました。

また，鳥取大学医学図書館と当館は短期の職員相互派遣研修を実施しています。派遣先で日頃触れることのない専門的資料やデータベースについて知ることができ，研修で培われた職員同士のつながりは，自館の資料だけでは解決できない資料相談等に対応する際の助けとなっています。

平成21年度には，県内の図書館職員を対象に「図書館における医療・健康情報サービス提供のためのスキルアップ講座」を実施しました。これは，県の自治研修所（現・職員人材開発センター）の研修として，医学知識のない公共図書館員が基礎的な知識を得られるカリキュラム開発と運営を日本医学図書館協会に委託し行ったものです。その後も，県内図書館職員向けの研修の中で，医療・健康情報サービスを取り上げ，専門性の向上を図っています。

◆今後に向けて

来年度，当館の医療・健康情報サービスは開始から20周年を迎えます。県民のみなさまが病気や健康について知りたいと思ったときに，いつでも情報を調べられる場所として図書館をさらに活用していただけるよう，県内図書館のネットワークや関係機関との連携を活かしながら，信頼性の高い資料・情報の収集，職員の専門性の向上，図書館機能のPRを継続していきたいと考えています。

【注・参考文献】

1. 中山和弘．これからのヘルスリテラシー．講談社，2022，p.13.
2. 鳥取県．"第4次鳥取県がん対策推進計画（令和6年度～令和11年度）"．2024，p.14．https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/817793/R6keikaku00.pdf，（参照 2025-5-5）．
3. 鳥取県立図書館．“図書館を活用した「オレンジネットワーク鳥取モデル」推進事業報告書”．https://www.library.pref.tottori.jp/health/cat8/post-27.html，（参照 2025-5-13）．
4. 鳥取県．“鳥取県福祉のまちづくり条例について”．https://www.pref.tottori.lg.jp/81585.htm，（参照 2025-5-13）．

美麗島（台湾）の公共図書館

永田 治樹

▶Web版では写真つきでご覧いただけます。

16世紀のポルトガル人がこの島を「Formosa（美麗島）」と呼んだ。台湾は自然豊かで美しい。今では一人当たりのGDPは日本より一つ上に位置する，自由が保障された裕福な国である。その公共図書館に関しては，2024年の『臺灣閱讀風貌及全民閱讀力年度報告』に「来館者数は延べ1億3151万人に達し，前年比21.35%増で，一人当たり平均5.40回来館したことになる」。また「図書の貸出総冊数は1億4694万冊を超え，15.49%増で一人当たり平均 6.10 冊の貸出で（中略），さらに電子書籍の貸出は［1980万冊を突破し］，前年に比べ成長率は99.80%だった」[1]とある。

以前から台湾の図書館でのDX化やスマート化は伝聞していた。それがどのようなものか，そして公共図書館の様子を確かめてみたいと，この4月に二つの国立図書館と三つの公共図書館を訪問した。延べ9日間の調査でしかなくいくぶん心もとないが，この取材旅行で強く印象づけられた点を記してみる。

◆人々と公共図書館の近接性

訪問したのは，桃園，台南，高雄とすべて「直轄市」（人口125万人以上の都市圏で現在6市）の公共図書館[2]である。**表**に示すように，人口規模でいえば，日本の政令指定都市に匹敵しよう。桃園市は名古屋市，台南市は札幌市，高雄市は大阪市くらいだ。ただし面積は最小の桃園市を含めかなり大きい。まずは，人口比での図書館数の多さと中央館の大きさに注目してほしい。人々と図書館との隔たりは，われわれのものより小さい。また，移動図書館車も配置されている。高雄市には17台もある[3]。

表　3市の図書館

	桃園市	台南市	高雄市
人口	227 万人	187 万人	270 万人
面積	1,220km^2	2,191km^2	2,951km^2
区の数	13 区	37 区	38 区
図書館（分館含む）数	45 館 移動図書館車 9 台	46 館 移動図書館車 2 台	61 館 移動図書館車 17 台
中央館の延床面積	46,300 ㎡	39,773 ㎡	37,232 ㎡

さらに人々との近接性を高めるいくつかの方策がある。一つは，コンビニへの配送サービスで，所望の資料を近くのコンビニまで届けてもらえる。この種のサービスは日本でも行われているが，台北市が1万店と契約したように[4]，ここではもっと広範囲に浸透している。台南の楊館長によればコンビニへの配送によって，隔地の人々へのサービスが展開できているという。

また，台湾では24時間自動貸出返却機も見慣れた光景である。図書館に設置されることもあるが，駅や空港，スーパーなどに機器を置き，資料を受け取ったり，図書館が見繕った資料を選んだりもできる（「智慧圖書館（Intelligent Library）」[5]）。

館内にももちろん自動貸出機はある。それよりも簡便なのは，スマホによる貸出アプリの利用だ。自分のスマホで，資料のコードを読めば手続きは完了，BDS（Book Detection System）解除もできているから，誰も煩わせず簡単に資料が借り出せる。上述のコンビニ配送についてもアプリが活躍している。スマホで本を検索して，配送の依頼まで行える[6]。

以上に加えて，電子資料サービスは図書館の近接性や利便性を確実に高める手段となる。電子書籍には，図書館が権利を永久に保有できるものと出版社のプラットフォームで利用量ベースの契約によって利用する二つのタイプがあるようで，比較的電子書籍が少ないという台南市立図書館では，前者が約1万1000冊であるが，後者については昨年度約25万8000冊貸出されたという[7]。台南の電子書籍サイトにはそのほか国立図書館やプロジェクトグーテンベルグのものを含め10のサービスが挙げられている。加えてデータベースなどのサービスもあり，電子資料サービスは充実している。

図書館の近接性を向上させる，利用者の都合を考慮したこれらのサービスは，われわれのものよりもずっと心地が良い。

◆人々に寄り添う工夫

訪問した三つの公共図書館（中央館）はすべて2012年以降に新築したもので，評判を取った建築である。美しいデザインやアメニティの良さは無論だが，サービス空間の構成にはとても感心させられた。

閲覧スペースはもとより，児童，ヤングアダルト，高齢者といった世代別エリアや，障害者のエリア，コンピュータそしてAVメディアを備えたスペース，メーカースペースとグループ学習や展示・イベントのスペース，レクチャーシアターなど，人々にとって満足ゆくものになっている。印象に残ったのは，児童サービスのエリア設定である。**表**にあるように延床面積が大きく一つのフロアがこれにあてられる。台南では，絵本，児童文学，画像別児童書，外国語児童書，視聴覚コーナー，ポップアップブック，読み聞かせコーナー，五感探究ゾーン（話す・歌う・読む・書く・遊ぶによって早期の読書リテラシーを養う）と八つもの用途ごとに設えられていた。桃園はおもちゃセットの貸出や動きにつれて動くインタラクティブな画面遊びなどで楽しめる場所を演出している。高雄の幅広い児童コレクションも目を引いた。

また，高齢者のためのエリアには新聞や雑誌を近くに配置してある。桃園では障害者エリアを隣接させ，高齢者同士のコミュニケーションを促すブレティンボードのような工夫もある。それに，ヤングアダルトのエリアは資料やゲームにとどめず，ここにメーカースペースを置いている。この世代の発達をねらったアイデアである。

各館，ハードウェアやソフトウェアも十分に取りそろえられている。そして，座席や機器の予約機は各館のエントランスの付近に配置されている。共用施設をうまく使ってもらうには不可欠だろう。

サービス空間を設定するとき，どのように人々が使うかを熟慮する。とはいえ，人々の要求は多様化し移り変わりも早い。時代の変化に合わせるのは容易ではないが，これらの図書館には，人々に寄り添う丁寧な工夫が施されていた。

◆国立図書館の後押し

今回台湾の公共図書館の目覚ましい進展を目にした。もちろん，各図書館はそれぞれ問題を抱えるが，果敢にことに挑んでいる。それに，国立図書館の活動がこれを後押ししている。一つは国家図書館のオープンラボ[8]だ。2022年に始めた「探索・体験・学習・インスピレーション・創造」をコンセプトとするマルチクリエイティブスペースで，入館に年齢制限（16歳以上）のある国立図書館が，ここでは6歳以上を認める画期的な措置をとって，新たなサービスモデルを実証している[9]。

また，公共図書館を指導することを第一の任務とする台中の国立公共情報図書館は，全国的なデジタルリソースのクラウドセンターとして機能するとともに，AIなどスマート技術を導入した図書館のあり方を推進している。その実験的な施設が若者たちの人気を呼んでいる。

末尾になったが，お世話になった各図書館の方々，行く先々支援してくれた EBSCO の公丕儉さんとその仲間への謝意を記しておきたい。

【注・参考文献】（URLの参照日はすべて 2025-05-05）

1. 國家圖書館『113 年臺灣閱讀風貌及全民閱讀力年度報告』2025, p12. https://nclfile.ncl.edu.tw/files/202504/f4dc0de0-1425-4dd2-b462-6c25f5155848.pdf.
2. 桃園：https://www.typl.gov.tw/ja/About/Introduce.
   台南：https://www.tnpl.tn.edu.tw/u541842879638294958 6/a1.
   高雄：https://www.ksml.edu.tw/sitemap/SubMenu.aspx?Parser=99,3,0.
3. 6 台は通常のもの，11 台はこの図書館が2017年行政法人化した後に民間の寄付で取りそろえられたもので「モーバイル読書車」という。
4. 「台北市立図書館、台湾内のコンビニエンスストア約1万店舗での本の受取・返却サービスを開始」『カレントアウェアネス-R』2016.10.20. https://current.ndl.go.jp/car/32763.
5. 酒井貴美子「ただいま増殖中，台湾の知恵図書館」『カレントアウェアネス-E』No.226, 2012.11.15. https://current.ndl.go.jp/e1357.
6. アプリは，https://www.tnpl.tn.edu.tw/U5204355698242154271/A1.
   手順は，https://www.tnpl.tn.edu.tw/u5664675133067420077/a1.
7. 台南市立図書館の電子コレクションサイト
   ベンダーとプロジェクトごとのもの：https://tnml.ebook.hyread.com.tw/?webpacLang=ja_JP, 全体：https://www.tnpl.tn.edu.tw/u4644318637373758255/s1.
8. 國家圖書館, Open Lab. https://open.ncl.edu.tw/en/.
9. アメリカ図書館協会の 2023 International Innovators として表彰された。https://americanlibrariesmagazine.org/2023/07/19/2023-international-innovators/.

編集・発行：株式会社 **未来の図書館 研究所**　〒113-0033 東京都文京区本郷 4-9-25 2階　URL: https://www.miraitosyokan.jp
✉ info@miraitosyokan.jp　☎ 03-6673-7287　FAX 03-6772-4395　https://www.facebook.com/miraitosyokan/
図書館づくりのご相談，原稿執筆，講師依頼等，お気軽にご連絡ください。本 NEWS LETTER へのご寄稿もお待ちしております。